



市長 來住 壽一

# 迎春

平成25年

## ほっとコラム 63

### 未来の西脇市のために

新年あけましておめでとうございます。市民の皆さんには、ご家族おそろいで希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、池田政之さん脚本のドラマ撮影、トータス松本さんの凱旋ライブ、岡平ゆかりさんのパラリンピック出場、横尾忠則現代美術館のオープン、森脇浩司さんのオリックス監督就任、長谷川穂積選手の世界前哨戦勝利、西脇工業高校の全国高校駅伝準優勝など、郷土出身や地元の方々の活躍が、地域に希望と活気をもたらしてくれました。

今年私の任期2期目の最終年。今期の総仕上げをしなければならぬと気を引き締めています。西が丘複合施設の整備、郷瀬南部地区を中心とした浸水対策

など多くの懸案事項に一定の道筋がつかまりました。まだ道半ばの課題も残っていますので、今年も全力で取り組んでまいります。

現在、市総合計画の後期基本計画を策定中です。その中に3つの重点プロジェクトを設定します。西が丘複合施設を活用した事業展開やまちづくり活動の人材育成、地域内での経済循環システムの研究・構築や農工商の連携、地域資源を活用した交流人口の増加など、将来に向けた施策を戦略的かつ積極的に推進してまいります。

子どもたちが安心して学べる環境を整備することも重点施策の一つ。南中学校は改築が完了し、3年生は新校舎から巣立っていきます。建設中の給食センター

は今年9月から供用開始。双葉小学校の改築工事に着手するほか、重春小学校校舎の耐震補強、西脇小学校木造校舎の耐震化を含めた実施設計も着実に進めてまいります。

市長就任以来、「市民主役のふるさと運営」を一貫して提唱してきました。市民の皆さんがさまざまな分野で汗を流し、自主的・主体的に活動されていることに、感謝するとともに心強さを感じています。西脇市を取り巻く環境は依然として厳しい状況ですが、住んで良かったと実感できるふるさとづくりを市民の皆さんとともに進めてまいります。

新しい年が皆さんにとって、よい年でありますようお願い申し上げます。私の年頭のごあいさつといたします。



左上) 区間4位の好走で準優勝を決めた牧浦聖士選手  
上) レースの流れを組み立てようとして力走する中谷圭佑選手  
左) 起伏の激しい6区に挑む村上優輝選手

### 第63回全国高校駅伝男子結果

総合順位	高校名(県名)	記録
1位	豊川高校(愛知県)	2時間2分55秒
2位	西脇工業(兵庫県)	2時間4分46秒
3位	伊賀白鳳(三重県)	2時間5分33秒
4位	倉敷(岡山県)	2時間5分33秒
5位	世羅(広島県)	2時間5分53秒
6位	白鷗大足利(栃木県)	2時間5分54秒
7位	小林(宮崎県)	2時間5分54秒
8位	山梨学院大付(山梨県)	2時間6分7秒

区間	距離(km)	氏名(学年)	記録	区間順位	通過順位
第1区	10	中谷圭佑(3)	29分59秒	7位	7位
第2区	3	浅川倅生(3)	8分36秒	9位	6位
第3区	8.1075	藤原滋記(2)	24分17秒	7位	7位
第4区	8.0875	廣田雄希(3)	23分27秒	2位	2位
第5区	3	磯口晋平(2)	8分47秒	5位	2位
第6区	5	村上優輝(3)	15分03秒	7位	2位
第7区	5	牧浦聖士(3)	14分37秒	4位	2位



順位を2位へ押し上げた廣田雄希選手



主将としてチームをまとめ上げた浅川倅生選手



トップ豊川高の背中を追う磯口晋平選手



混戦の第3区を冷静に走る藤原滋記選手

# 最後まで前を追い見事準優勝

## 第63回全国高等学校駅伝競走大会で西脇工が好走

先月23日、午後になり比叡山からの北風が吹き、一段と寒さが加わった都大路で、第63回全国高校駅伝大会が開催され、今年も西脇工業高校陸上競技部が、持ち味の粘り強いレースで後半実力に順位を上げ、見事に準優勝を果たしました。

レース前から、外国人を要し爆発力のある新興勢力・豊川高校と、過去8回の優勝を誇る伝統校・西脇工業の争いが注目されていた今大会。予想どおり第3区で豊川高校の外国人ランナーが他校を一機に引き離し、これを追う展開に。

第1区の中谷選手から7位でリレーした西脇工業は、このタスキを確実に繋ぎ、第2区で6位、外国人ランナーがそろった第3区では一つ順位を下げますが、第4区廣田選手の間第2位の好走で2位に。その後も、後続との差を広げ、第7区牧浦選手が準優勝でゴールを駆け抜けました。

この試合の応援に駆けつけた約400名の市民応援団から、西脇工業の伝統である「粘り強い走り」に、力一杯の声援と温かい拍手が送られました。

### レースを振り返って…

#### 市民の皆さんの応援に感謝

#### 常に力を出し切れるように

足立 幸永 監督

市内だけでなく、京都でも多くの市民の皆さんから温かいご声援をいただき、深く感謝申し上げます。

昨年の悔しさをバネに、今年一年、生徒たちと明確な目標に向かって取り組んできただけに、それを叶えてやれなかったことが残念です。

監督就任の年にも準優勝しましたが、その時とは全く違う気持ちで受け止めています。明日から目標に向かって努力してまいります。

浅川 倅生 主将

中谷と自分でレースの流れを組み立てたかったのですが、思惑どおり走れなかったことが悔しいです。それが他の区間にも影響してしまったと思います。

外国人ランナーの存在を意識する・しないではなく、どんなレース展開になっても、力を出し切れるように、さらに努力しなければならぬと感じました。このことを後輩たちに伝えていきたいと思っています。